

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

Little Bees International

共同代表 高橋 郷

コロゴッチョ・スラムと共に歩む

■ ケニアでの出会い

2012年12月、外務省主催NGO海外スタディー・プログラムで、ケニアのナイロビに所在するColumbia Global Center (MDG center) に派遣されていた私は、その活動の最中、1人のコミュニティーデベロッパーと出会いました。彼の名前は、アグレイ・アヴェンディ。

スラム大国ケニアでも、人口規模（約20万人）から、3番目の大きさを誇るコロゴッチョ・スラムの出身者であり、その現状に胸を痛めながら、彼はより良いコミュニティーづくりのための支援活動を続けていました。私が彼と出会ったのも、そんな活動の最中。コロゴッチョの子どもたちが学校から認定書をもらえるように、出生記録を親御さんたちから集めているところでした。コロゴッチョ出身者は、住所不定の方も多く、そんな方たち子どもたちが、教育で不利な扱いを受けることのないよう書類を、書き方のアドバイスをしながら集めていたのです。

私自身、東日本大震災後、NPO法人の一員として活動をした経験からも、コミュニティー支援活動には、非常に興味と関心をもっていたのですが、そんな自分の体験談を彼に話しているうちに、アグレイから、「ぜひコロゴッチョ・スラムにきてもらいたい」というお話をいただきました。正直“スラム”という言葉に、ネガティブなイメージしかもっていませんでしたが、アグレイの熱心さに、どんなところなのだろうと、興味をかきたてられました承しました。

実際にコロゴッチョ・スラムに入って、まず驚いたのが人々の人懐っこさ。“スラム”というと、もっと殺伐とした光景を想像していた私は、その雰囲気、ステレオタイプ的なイメージしかもっていませんでした。

さらに、人々の互いを思いやる温かさ、優しさ。お年寄りや体の弱い方には、隣近所の方が必要なものを聞いて、直接届けるそのコミュニティーのもつ扶助システムに、コロゴッチョのもつ魅力を感じました。

また、アフリカで何かをしてもらった際は、よく「サービスをしたのだから対価をください」と言われることが多いのですが、アグレイに限っては2012～2013年の滞在期間中、一度もそのようなことはなく、帰国前最後に会った時も、私が日本人だから、と、自身の自宅でご飯を手料理で出してくれました。

■ 「ケニア人によるケニア人のためのケニア支援」

そんな、コロゴッチョの魅力とアグレイの思いやりに心動かされ、第5回アフリカ開発会議（TICAD V）が終了し、仕事に一区切りがついた2013年6月、コロゴッチョのスラムを支援するための団体の設立を決意。7月に設立総会を開催し、11月には無事、東京都よりNPO法人として認証をいただくことができました。

団体の特徴としては、「ケニア人によるケニア人のためのケニア支援」、それを日本とケニアの

ネットワークのなかからリソースを集め支援するという点になります。日本の団体も共同代表には、アグレイになってもらっていますが、ケニアでも、団体の役員は、私以外は全てケニア人です。もともと、コロゴッチョ・スラムがもっていたコミュニティとしての機能に着目し、また既存の活動、コミュニティラジオ局 KochFM や、HIV 感染支援の女性団体 Young Mother Club と提携し、そのリーダーたちに、団体の役員になってもらうことで、単なる新規団体としてではなく、緩やかなスラム支援のネットワークのためのプラットフォームとしての役割も担っています。

■ 団体のミッション

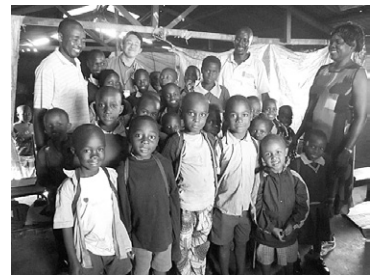
団体のミッションとしては、コロゴッチョ・スラムにおける女性とユース世代のエンパワーメントを掲げていますが、女性たちに仕事と収入の獲得の機会を与え、自立してもらうこと、そしてその子どもたちの就学支援を大きな活動の柱にしています。

コロゴッチョでは、収入のない女性たちが簡単にセックスワーカーになってしまうことから、HIV の感染率は40%近くと、非常に高い水準にあり、RH プロジェクトの充実と、女性たちへの就業支援が喫緊の課題として挙げられていました。その課題へのソリューションとして、アグレイは、2009 年から、Income-generating activities (利益獲得活動) として、スクールバッグ制作プロジェクトを実施。普通のスクールバッグ (1500~



スクールバッグを制作するコロゴッチョのシングルマザー

2000Ksh) を購入できない貧困層の子どもたちに格安 (100Ksh) でスクールバッグを提供するとともに、仕事のない女性たちを雇用し (10



コロゴッチョのコミュニティスクール (スクールバッグを寄贈しての記念写真)

人程度)、給料の支払いを行っています。スケールアップとマーケティング (新規市場の開拓) が現在の課題です。土日も休む間がないほど、作業場ではミシンを動かす音が毎日鳴り響いています。

そのほか、KochFM は、ケニア初のコミュニティラジオ局として、2006 年に設立されており、コロゴッチョ現地の生の声、暮らしに役立つ情報、そして若者向けの音楽 (コロゴッチョ・スラムのミュージシャンによる) を毎日発信しています。団体のボードメンバーでもあるDJのエズラが、そこで日々、スラムのイメージをネガティブなものからポジティブなものへと変えるため活動を行っています。

2014 年 2 月には、女性とユース世代による、コロゴッチョの問題を議論するためのワークショップの開催も予定していますが、これからの活動に、地域の皆さまからも熱い期待を寄せてもらっています。

■ 「ローカルの課題はローカルの目線と現場で」

コロゴッチョ・スラムには、地域の行政官として、ケニア政府から派遣されたチーフと呼ばれる役職の方が 1 人、常駐でいらっしゃいます。コロゴッチョの抱える課題を定期的にチーフと話し合い、草の根からの要望をケニア政府に伝えるアドボカシー団体としての機能も今後強化していきたいところです。「ローカルの課題はローカルの目線と現場で」が、私自身 10 年近く自治体職員として活動してきた中で心がけてきたことですが、日本でも、ケニアでも、そうした意識を忘れずに活動していきたいと思っています。